「先ず、私たちの信仰が問われています」

———マタイによる福音書 14 章 13－21 節———

日本キリスト教団清水教会牧師　三浦　洋一

教会員の O さんが、静岡新聞 7 月 16 日付け「窓辺」の囲み記事を、「心にとまるものがありましたので･･･」と、送って下さいました。その記事は、伊豆の国市観光協会長の安田昌代氏が「宝物」と題を付けて書かれたものでした。本人が、クリスチャンであるかどうかは定かではありませんが、その文章の書き出しは

「あなたの手の中に何を持っていますか」。イエスはこう聞かれたそうです。

若いころ、私はこの言葉がどういう意味を持つのか理解できませんでした。・・・・・・

安田さんが覚えていた聖句が、どこにあるのか捜してみたのですが、正確にはわかりませんでした。しかし、書かれたものの内容から類推して福音書に書かれている「五千人（四千人）に食べ物を与える」物語ではないかと思いました(あくまでも私の推論)。しかし、安田氏の文章を読んでいく内に、確信がなくなったのです！安田氏の珠玉の文が続きます。

今まで、あるのが当然でありがちと貴重ともかんがなかったものが
私の宝物だったと気付いたのは、行く先の見えない苦しみの中から
でした。
そして、私はこんなものを持っていたのだと思い当たりました。
よその人、よそのことをうらやんでも何にもなりません。
今、手の中に預けられたものを大切に生かしていくことから始めるの
だと。

安田氏は「神様からいただいた賜物を大切に用いることによって、より豊かなものとなる。お互いに神様から与えられたものを持ち寄って、よりよいものを得ることができる」と、語っているようでもありました。

「五千人の給食」の物語は、大勢の群集が食べる食料がないのだから、各自が自分の力で食料を調達するようにとの弟子たちの提案から始まっています。

イエス 「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」

弟子　「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」

イエス 「それをここに持って来なさい」

私たちは、ともすると目に見えることに捕らわれがちであり、この世の常識で物事を判断しがちです。「市民クリスマス」は、神様のみ業(教会)なのです。勿論、人間的な業も大切ですし、心を一つにして祈り・準備に当ることは不可欠です。「あなたの手の中に何を持っていますか」と問われたときに、信仰が問われているのではないかと思いました。イエス様も、からし種の信仰の物語を語りながら、私たちに問われました。「あなたは真実に私を愛していますか」「あなたは、わたしのみ言葉を信じていますか」・・。

市民クリスマスは、清水市内の教会及び信徒の内側から湧き出てくる信仰が核にあります。まず内側の私たちが神様から与えられている宝(賜物)を、大切に磨くことが大切ではないかと思うのです。イエス様が言われたように、内で争いがあれば、どうして・・・・・！「二匹の魚と五つのパン」によって奇跡がなされたように、先ず自分達が持っているものを主に捧げ、神様の素晴らしい出来事を・・・・。

暑い日が続いていますが、草花に水を注ぎながら、成長させてくださる神様に絶対的な信頼を持って、総ての事柄に当っていければと思わされている今日この頃です。

徳善義和（とくぜん・よしかず）先生の紹介です。期待しましょう

1932年、東京に生まれる。東京大学工学部卒、日本ルーテル神学校卒、ハンブルク大学、ハイデルブルク大学神学部留学。日本福音ルーテル教会牧師を歴任。
ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校教授として38年奉仕。
ルーテル教会牧師養成の責任を負う。現在、ルーテル学院大学名誉教授。
宗教改革者マルティン・ルター研究に生涯を捧げており、著書・訳書多数。
現役引退後は、ルター著書の翻訳とともに、バッハの神学的研究を心がける。
日本キリスト教協議会（NCC）元議長、現在は日本エキュメニカル教会理事長、日本賛美歌学会会長。難しい神学を明瞭簡潔に伝えることができる神学者であり学生を育てる牧会者である。　　**（提供：明比　輝代彦　牧師）**